

なかのさくらのいせき

中野桜野遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間 20031101～20051031

所在地 海老名市中野地内

時代
弥生
古墳
中～近世



概要

本遺跡の調査は、東名高速道路改築事業(中野地区)に伴う事前調査として実施したものです。遺跡は相模川東岸の自然堤防上にあります。発見された遺物や遺構は弥生時代中期中葉から近世までと長期にわたります。このうち、特筆すべきは、弥生時代中期後半から古墳時代後期まで続く集落跡が発見されたことです。住居跡は100棟を超えます。

弥生時代中期後半から古墳時代前期の集落は、調査区北側に居住域、調査区南側に方形周溝墓の墓域から構成されます。その境となる場所に幾重にも溝が発見されましたので、居住域と、墓域を分ける溝かもしれません。

これらの集落跡は、稲作開始時期および定着期に相模川沿いの低地開発があったことを示す良好な資料です。

古墳時代中期から後期の集落は、調査区全域が居住域となります。中期に帰属する住居跡には、炉を伴うものと竈を伴うものがあり、炉から竈へ変化する時期にあたることがわかります。

このほかに、調査区の中央で中世の掘立柱建物址とそれを取り囲む溝や、調査区の北端で近世に構築された旧堤防下から墓地なども発見されています。



▲ 弥生時代方形周溝墓



▲ 古墳時代竪穴住居跡



▲ 弥生時代出土遺物